

(第6条関係)

事業計画書

事業名	外国人の子どもと日本人の子どもが触れ合う集い
団体名	外国人の子どものための勉強会

1. どのような地域課題を解決したいのか、その現状や背景などについても含めて記載してください。

現在松戸市には約11,500人の外国人登録者が在住しており、これは市の人口478,800人の2.4%に当たります(登録者数は、平成23年現在。松戸市総務課)。

分かり易くいえば、住人の40人に一人が外国人ということになります。

そこには当然子どもたちがいます。学校教育法に基づく県の調査によれば、松戸市には外国人の小学生191人と115人の中学生がいます(平成24年現在。国立+公立+私立)。

高校生、就学前の子どもたちを加えると相当な人数になると思われます。

こうした子どもたちが、早く日本語を習得し、学校に馴染んで学力をつけ、やがて自立した市民となって松戸市を支える存在になって欲しいと願っています。

子どもたちの前には困難な二つのハードルが立ちはだかっています。

一つは学習言語と漢字というハードルです。

日本語は難しいと言われていますが、子どもたちはかなり短い間に日常会話には不自由を感じなくなります。そのかわり子どもたちは、「漢字はとても難しい、日本語で文章を書くのは難しい、日本語の教科書で算数・数学を勉強するのはもっと難しい」、と言います。簡単にみえる足し算をとってみても、足すといくつ、加えるといくつ、全部でいくつ、合わせるといくつ、みんなでいくつ、合計は、と複雑です。いわゆる「生活言語」の向こうには、「授業の日本語が難しい」という、つまり抽象化された「学習言語」という高いハードルが待っています。

もう一つは、彼らは文化、価値観、習慣、などが出身国とは大きく異なる日本の学校という環境の中で、日本人の子どもなら当然知っているマナーや暗黙の了解に基づいた行動がとれずに、どうしても孤立しがちであるというハードルです。勉強だけでなく、学校や地域のコミュニティの中の一員として、また社会人になれば職場の一員としてきちんとした振る舞いができるようなマナーと素養を身につけることも大切です。

この提案書では、この視点を取り上げてイベントを組んでおります。

子どもたちにとっては、生活の大部分は学校で過ごす時間であり、これら二つのハードルは

深刻です。彼らのお手伝いをし、レベルアップをはかることによって子どもたちが元気になり、学校が好きになり、松戸が好きな大人に成長してもらいたいと思います。

一方、日本人の若者たちはどうでしょうか。

最近の若者は内向きで海外に出ていくというリスクを取らなくなったという議論が盛んになされています。この見方には賛否がありますが、海外に出ていく若者が減っていることは事実です。

経済協力開発機構（OECD）、ユネスコ統計局、他によると、平成16年に83,000人であった海外への留学生は、平成23年には39,000人へと激減しています。

しかし、このような中にあっても国際舞台で活躍できる「グローバル人材」が求められていることには変わりありません。今年6月に安倍政権が公表した「日本再興戦略」は、人材力の強化をうたい、2010年の留学生6万人を2020年までに12万人に倍増するという意欲的な目標を掲げました。

朝日新聞デジタル（2012年9月28日）は、「経団連が留学する大学生に年100万円を支給する独自の奨学金制度を始めた」と報じました。

毎日新聞（2013年06月21日）は、「再び海外の大学を目指す“外向き”志向が広がり始めているようだ」と報じ、「熊本県は海外難関大の合格者に100万円を給付する制度を設けた。」という記事を書いています。また、高校生対象に開いたある学習相談会で、千葉県私立高2年の男子生徒が「海外の大学で勉強し、日本を引っ張っていける一人になりたい」と夢を話したと報じています。

私達には勿論そのような大きなプロジェクトは不可能です。ただ私達は、外国人の子どもたちへのアクセスを持っています。この度提案させて頂いております「外国人の子どもと日本人の子どもが触れ合う集い」を通じて、日本人の子どもと外国人の子どもに、世界には色々な異なった習慣やマナーや考え方、大切に思っていること、などに違いがあり、それはどちらが優れているとか劣っているとかの問題ではないことを、体験を通して知ってもらいたいと考えます。

このようなイベントを通し、日本人の子どもには外国と外国人に、外国人の子どもには日本の風習やマナーについて関心を持ち、理解を深め、多くの友人を持って、元気になって欲しいと願います。

これが、私たちがこの提案書の中で取り上げた第二の視点です。

2. 事業を行うことでどのようなことを達成したいのか、どのような成果があるのか、成果目標を記載して下さい。(事業を実施した場合に得られる成果目標は、数値を用いて簡潔に記載して下さい。)

- ① 松戸市において3回のワークショップを開催します。
- ② 3回合計で120人が集います。内訳は次の通りです。

	参加者数	
	1回当たり	3回合計
日本人の子ども	15人	45人
外国人の子ども	15人	45人
家族・先輩	10人	30人
合計	40人	120人

その結果、

- ① 松戸市在住の日本人の子どもたち及び外国人の子どもたちが互いに触れ合う体験を通して、生きた形で異文化に触れる。
- ② 外国人の子どもたちが、日本のマナー・習慣・大切な行事、等についての理解を深める。
将来社会人となったとき、日本人のマナーや習慣などの違いを理解していない振る舞いをして、変な人さらには嫌な人などと思われないようにと願っています。
同時に日本人の子どもたちが、日本のマナー・習慣・文化を再認識する機会とする。
- ③ 日本人の子どもたちが学校において、外国人の子どもと友達になる。
また、外国について興味を持ち、国際的な場で活躍することへの関心を高める。

3. 事業内容を具体的に記載して下さい。

・事業内容

平成26年度の事業として、「外国人の子どもと日本人の子どもが触れ合う集い」サブタイトル、一ワークショップ「日本を理解する・外国を理解する。マナーと習慣」一を提案します。

- ① マナーの違い・習慣の違い
食事のマナー、食べてはいけない物、など。
- ② 大切な行事
- ③ 日本語の理解（丁寧語と敬語）

・想定されるスケジュール（事業内容について、具体的な取り組みを下記のとおり記載してください）

	具体的な取り組み	実施体制、対象、場所など
4月		
5月	2時間のワークショップ。 マナー、習慣、大切な行事、を中心として国による違いについてのオリエンテーション。 日本人・外国人の児童による経験の発表と話し合い。まとめ。	日時：平成26年5月 会場：松戸市市民会館301号室 参加人数：小学校低学年等、40名 ファシリテーター：1名
6月		
7月		
8月		
9月	5月と同様のワークショップ。	日時：平成26年5月 会場：松戸市市民会館301号室 参加人数：小学校高学年等、40名 ファシリテーター：1名
10月		
11月		
12月	5月と同様のワークショップ。	日時：平成26年5月 会場：松戸市市民会館301号室 参加人数：中学生等、40名 ファシリテーター：1名
1月		
2月		
3月		

4. 助成金終了後、どのような活動に取り組むのかを記載してください。

当申請書の団体概要調書の「団体の目的」に、

「外国からやってきて地域の学校に入った子どもたちを主な対象に、真の自立のための日本語や学習支援、進路相談活動、地域に溶け込むための支援、などを行い広く公益に貢献すること。」

と書きましたが、今後ともこのような考えに沿った活動を推進して参ります。

当事業計画書の「1. どのような地域課題を解決したいのか」で取り上げた「二つの視点」を踏まえた事業「外国人の子どもと日本人の子どもが触れ合う集い」ーワークショップ「日本を理解する・外国を理解する。マナーと習慣ー」を継続・発展させ、お友達の輪を広げ、元気な子どもたちを増やし、地域への貢献をして行きたいと考えています。

外国人の子どもたちが、学校や地域のコミュニティー、さらには将来職場の一員としてきちんとした振る舞いができるような素養と習慣を身につけることは非常に大切です。

また日本人児童・生徒たちには、さまざまな文化があるという事実を学び、多文化共生ということについて考えるきっかけとなることを期待しています。

以上

事業の予算概要

【収入】

(単位：円)

科目		金額	積算内訳
団体	外国人の子どものための勉強会 拠出金	¥ 20,000	対象事業費の一部を我々の団体会計より拠出。
	自己資金合計額 (a①)	¥ 20,000	
	事業費収入額 (a②)	¥ 0	
	団体より拠出金(対象外経費分) (a③)	¥ 7,500	対象外経費を団体会計より拠出
	自己資金、事業費収入合計額 (A) = (a①+a②)+a③	¥ 27,500	
	市 市民活動助成金 (B)	¥ 100,000	
合計額 (C) = (A+B)		¥ 127,500	

【支出】

科目		予算額	積算内訳
助成金の交付対象経費	報償費	¥ 90,000	外部講師謝礼 30,000円×3回
	印刷製本費	¥ 6,000	資料印刷 40人×10頁×5円×3回
	使用料	¥ 5,400	会場使用料 3時間×600円×3回
	通信費	¥ 9,600	郵送料 80円×40人×3回
	消耗品費	¥ 9,000	マジック等初期費用 3,000円
			模造紙 2,000円×3回
	対象経費の合計 (D)	¥ 120,000	
その他経費	食糧費	¥ 7,500	昼食代 5人×500円×3回
	その他経費の合計 (E) = (a③)	¥ 7,500	
合計額 (F) = (D+E)		¥ 127,500	

【チェック項目】

- 1 助成金 (B) が、対象となる経費 (D) 欄の90%以内であること。
- 2 自己資金 (a①) 欄が、「対象経費 (D) 欄の10%以上」であること。
- 3 自己資金 (a①) 欄が、「対象経費 (D) - 事業費収入額 (a②) - 市民活動助成金 (B)」と同額となること。
- 4 助成金 (B) が、1事業あたり10万円以内であること。
- 5 対象経費については、必ず証拠書類を添付すること。